

# 経済・金融 フラッシュ

## ユーロ圏失業率(2023年2月) —失業率は低水準で横ばい推移

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

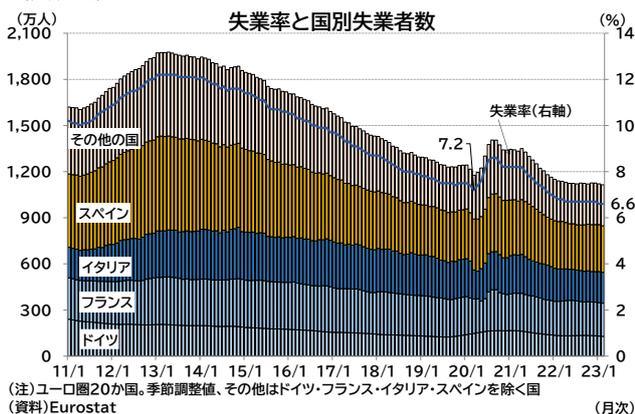
### 1. 結果の概要:失業率は横ばい推移が続く

3月31日、欧州委員会統計局(Eurostat)はユーロ圏の失業率を公表し、結果は以下の通りとなった。

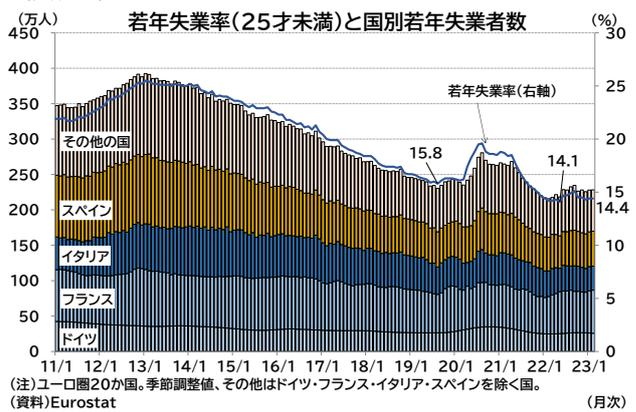
#### 【ユーロ圏失業率(20か国、2023年2月、季節調整値)】

- ・失業率は6.6%、市場予想<sup>1</sup>(6.6%)と一致し、前月(6.6%)から横ばいだった(図表1)
- ・失業者は1114.2万人となり、前月(1120.1万人)から5.9万人減少した

(図表1)



(図表2)



### 2. 結果の詳細:労働市場は堅調な国が多い

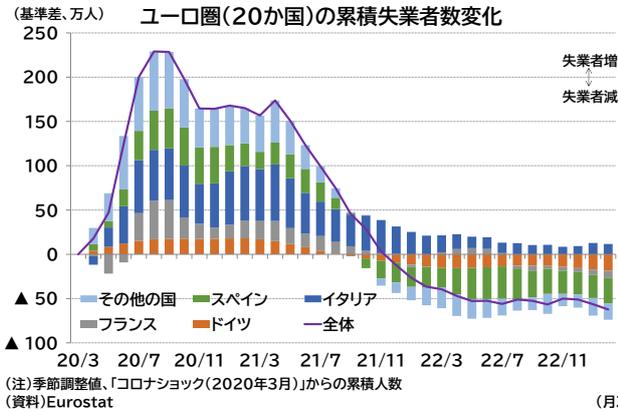
ユーロ圏(20か国)の2月の失業率は6.6%で、1月(6.6%)から横ばいとなった。失業率は1月に統計データ公表以来の最低値(6.6%)に低下、2月はそのまま横ばいで推移したことになる。なお、過去データの改定による変更はほぼなかったが、1月の失業率がやや改善方向に修正された(1月6.7(改定前)→6.6%(改定後))。失業者数は2月の前月差で5.9万人減となり、22年12月以降3か月連続での減少という形となった(図表3・4、改定前のデータでは年末以降に失業者がやや増加していた)。主要国別に見ても失業者数は減少しており、減少幅が大きい順にスペイン(▲2.7万人)、フランス(▲2.1万人)、ドイツ(▲1.5万人)、イタリア(▲1.4万人)だった。

2月の若年失業率は14.4%で、1月(14.4%)から横ばいだった(図表2)。若年失業率は22年5月(14.1%)をボトムに一時やや悪化した、足もとでは14%台前半での推移となっている。なお、

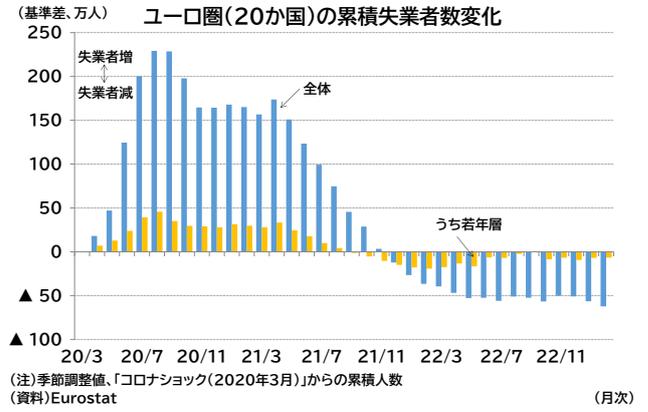
<sup>1</sup> bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

1月以前のデータはほとんど修正されなかった。若年失業者数は2月で228.3万人（前月差+0.2万人）とごくわずかだが増加したが、若年失業者数は21年後半以降、一貫してコロナショック前を下回り続けている（図表4）。

(図表3)

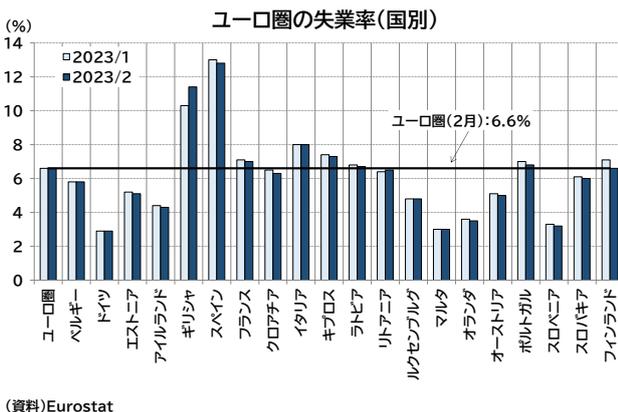


(図表4)

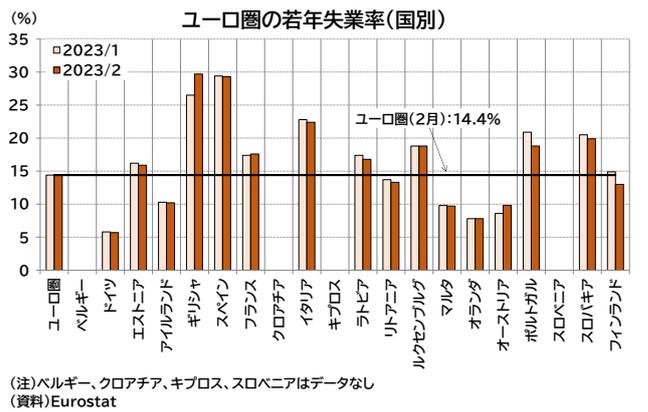


国別の2月のデータを見ると、失業率はデータが公表されている20か国中、悪化した国が2か国、改善が13か国、横ばいが5か国だった（図表5）。また、若年失業率は公表されている16か国中、悪化した国が3か国、改善が11か国、横ばいが2か国だった（図表6）。

(図表5)

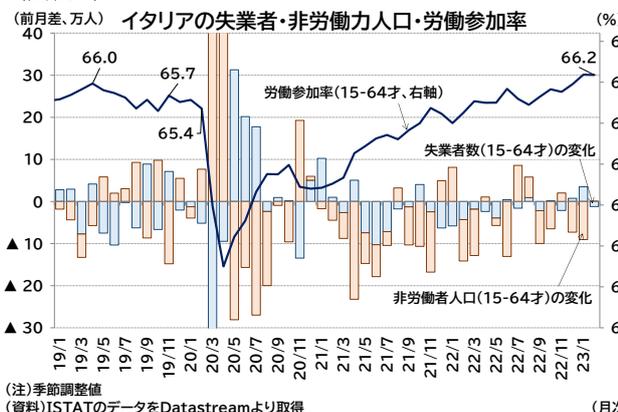


(図表6)

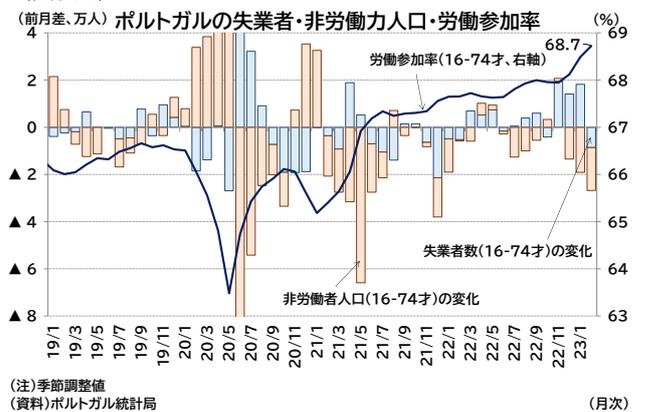


最後に詳細な月次データを公表しているイタリアとポルトガルについて確認すると、イタリアは失業者が微減、非労働力人口がほぼ横ばいで就業者が微増した。ポルトガルは失業者と非労働力人口が減少し、就業者が増加した（図表7・8）。いずれも、労働参加率は高水準であり、労働市場の底堅さが確認できる。

(図表7)



(図表8)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。